

東京大学大学院農学生命科学研究科 獣医学専攻の現状と問題点および将来像

資料4
獣医学教育の改善・充実に関する
調査研究協力者会議
(第12回) H25.9.17

東京大学大学院農学生命科学研究科 中山 裕之
anakaya@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

1

東京大学大学院農学生命科学研究科の教育ポリシー

ディプロマ・ポリシー

本研究科は、農学の基礎を形成する諸科学に関する世界水準の教育、研究を進め、人類が抱える食料や環境をめぐる多様な課題に取り組む専門性豊かな人材を養成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー

農学生命科学が抱える食料や環境をめぐる多様な課題に取り組む専門分野の学修を目指す人
世界に通用する第一級の専門知識の習得及び研究能力の向上に熱意をもって取り組む人

2

獣医学専攻・獣医学博士課程

1. 研究指導の方法

動物の生命現象に関する理解、病態の解明と克服または公衆衛生の向上を狙う高度に専門的な研究者の養成を図るため、研究目的、研究手法、成績の取りまとめ方、論文の書き方などについて指導を行う。

2. 研究指導の計画

1年時の4月より研究を開始し、修了年度内に学位論文の提出、最終審査を終えるべく研究計画を立てる。

3. 学位論文に対する評価・基準

5名以上の審査委員が、学位論文の査読および研究内容への質疑を行い、修了の予定者の総合的な研究能力を評価する。

4. 修了の認定基準

各専門分野で定められた講義、演習、実験および獣医学特論の必要単位を取得し、かつ、学位論文の評価基準を満たし、合格することを修了認定の基準とする。

3

入学試験

一般選抜および社会人特別選抜

● 入学試験：8月下旬

➤ 筆記試験：英語、専門科目3科目

（うち1科目は志望の専門分野、残り2科目は受験時に選択）

➤ 口述試験：専門科目

● 出願期間：7月中旬

● 合格発表：9月上旬

外国人特別選抜

● 入学試験：2月下旬

➤ 筆記試験：英語または日本語、専門科目3科目

（うち1科目は志望の専門分野、残り2科目は受験時に選択）

➤ 口述試験：専門科目

● 出願期間：1月中旬

● 合格発表：3月上旬

4

カリキュラム

- 形態学特別講義／形態学特別演習／形態学特別実験
- 生体機能学特別講義／生体機能学特別演習／生体機能学特別実験
- 生体防御・寄生体学特別講義／生体防御・寄生体学特別演習／生体防御・寄生体学特別実験
- 獣医臨床学特別講義／獣医臨床学特別演習／獣医臨床学特別実験
- 獣医学特論*

* 獣学特論:各研究室が持ち回りで担当。年4回。あるテーマについて3から5人の演者が講演するシンポジウム形式

5

獣学特論 最近の講義

7月17日

伴侶動物における臨床疫学研究: Evidence-based Medicine (EBM) のために
担当: 獣医内科学研究室

6月14日

疾患と免疫制御
担当: 応用免疫学研究室

1月18日

ヒトと動物の神経変性疾患研究の現状
担当: 獣医病理学研究室

11月6日

骨破壊、骨転移と破骨細胞 担当: 獣医外科学・高度医療科学研究室

10月19日

消化管運動のペースメーカー細胞: カハール介在細胞の機能と病態 担当:
獣医薬理学研究室

6

専攻横断的な教育・研究プログラム

● アグリバイオインフォマティクス・プログラム

農学生命情報科学特論、生物配列統計学、システム生物学概論、分子モデリングと分子シミュレーション、ゲノム情報解析基礎、バイオスタティスティクス概論 など

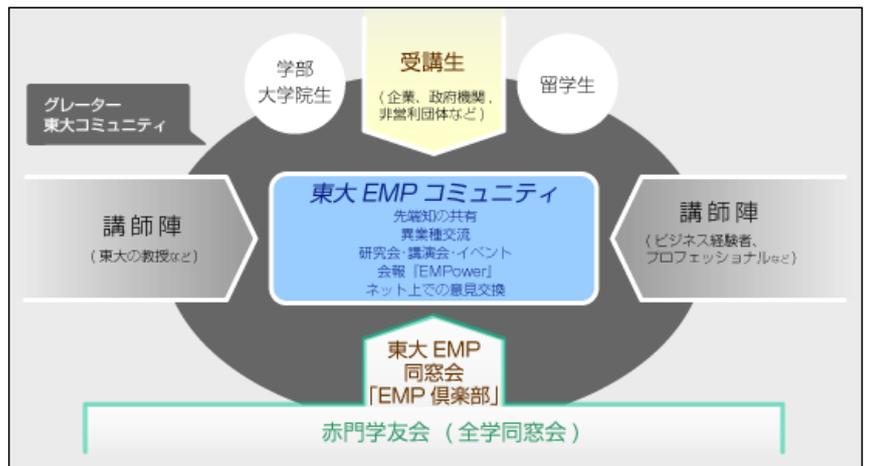
● アグリコクーン・システム

「産・学・官・民」の連携による、大学院教育のさらなる発展と充実を図る機構
食の安全ゼミナール、国際農業と文化実習、生物多様性と農業、農業環境における放射線影響ゼミナール など

研究科横断的な全学教育・研究プログラム

● 東京大学エグゼクティブ・プログラム(EMP)

将来の組織の幹部になる可能性のある優秀な人材を主たる対象にして、これまでどこの教育機関も提供していない高いレベルの、全人格的な総合能力を形成させるような「場」を提供することを目的とする。東京大学が持つさまざまな分野における最先端の知識を供給する。一部を大学院学生にも提供。



東京大学 Future Faculty Program (FFP)

大学教員をめざす大学院生のための教授法プログラム

以前は、大学教員となるためには研究者としての業績が重要であり、論文や学会発表を重ねることが就職に結びつくと考えられてきた。しかし、現在は採用場面においても研究業績だけでなく教育実績や教育能力が問われるようになってきた。

また、大学教員には、様々な学習環境学習環境を実現し、豊かな学びを育むために必要な意識、知識、スキルが求められている。

本プログラムは、新たな時代の要請を受け大学院生のうちから「教育」への意識を高め、実践的な力を身につけるために開設された。

大学院生数の推移(獣医学博士課程)

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
大学院生数	98	94	90	86	74	70	76	88	85	80
定員比	1.88	1.80	1.73	1.65	1.42	1.35	1.46	1.69	1.63	1.54
女子学生数 (%)	30 (31)	30 (32)	30 (33)	25 (29)	22 (30)	22 (31)	23 (30)	33 (36)	33 (39)	30 (38)
外国人学生数 (%)	23 (23)	21 (22)	17 (19)	22 (26)	18 (24)	18 (26)	26 (34)	26 (30)	23 (27)	21 (26)
東大出身者数 (%)	38 (39)	34 (36)	37 (41)	36 (42)	38 (51)	30 (43)	26 (34)	32 (36)	30 (35)	33 (41)

定員は13名 × 4 = 52名

修了後の進路

平成17年度から22年度 外国人学生を含む

小動物臨床	5	
研究機関研究員 (国内)	30	東大(農、医、医科研)、帯広畜大、九大、神奈川大、動衛研、日生研、感染研、都臨床研、都神経科学研、理研 など
研究機関研究員 (海外)	12	ソウル大獣、アイオワ州大獣、ジョージタウン大医バージニア大医、テキサス大医、コロラド大医、ベルリン大 など
大学教員(国内)	14	東大農、日大生物資源、日獣大、大阪府大農、富山大、防衛医大、聖マリアンナ医大、麻布大、東京医科歯科大 など
大学教員(海外)	4	韓国・全北大、タイ・カセサート大 など
製薬企業(研究職)	9	武田、中外、エーザイ、第一三共、アステラス、マルホ、東レ など
他の企業(研究職)	10	味の素、キッコーマン、全農家畜衛研、アプカム、アンファー、日本ジーン など
企業(研究職以外)	2	弁理士、ITベンチャー など
国家公務員	1	内閣府
地方公務員	4	愛媛県、大阪府、岐阜県、東京都(動物園)

11

大学院生のための奨学金・成果発表支援など

- 授業料免除
- 日本学生支援機構(JASSO)奨学金
- 日本学術振興会(JSPS)特定研究員
- ティーチング・アシスタント(TA)
- リサーチ・アシスタント(RA)
- 大学院学生海外研修・国際会議発表支援
- 国内学術成果発表支援
- 他の学外機関奨学金
- 他の学外機関研修成果発表支援

12

獣医学専攻教員数

- 常勤: 38名
教授20名(内兼担6)、准教授16名(内兼担6)、
助教2名
(兼担教員の所属: 応用動物科学専攻、農学国際専攻、附属牧場、医科研)
- 非常勤: 約25名

13

比較動物医科学大講座

動物育種繁殖学 専攻分野(研究室) 1-1-(1)

獣医解剖学 1-1-1

獣医生理学 1-1-1

獣医薬理学 1-1-0

獣医微生物学 0-1-(1)

獣医公衆衛生学 1-1-0

病態動物医科学大講座

比較病態生理学 1-0-1

獣医病理学 1-1-1

獣医内科学 1-1-1

獣医外科学 1-0-1

実験動物学 1-1-1

獣医臨床病理学 1-0-1

感染制御学 0-1-(1)

獣
医
学
専
修
組
織
表

教授-准教授-助教

14

問 題 点

- 志願者数が減っている
- 非寺子屋式の講義、演習、実習が必要
- プレゼンテーション法、アドミニストレーション法の講義、演習が必要
- 奨学資金が少ない
- 就職先として大学教員の需要が少ない
- 教員の絶対数が不足
- 連携大学院教員制度が不十分
- 競争的研究資金の確保が困難

15

東京大学獣医学専攻

→ 農学生命科学研究科の中の一専攻

- 利点
 - 他の農学分野との交流が容易
 - 広い視野で動物医科学を俯瞰できる
 - 研究科共通科目を履修できる
- 不利な点
 - 獣医学専攻大学院生への研究費、奨学金、TA・RA等の割当が少ない
 - 主体的な改革が行いにくい

16

望まれる将来像

- 国際化の推進
 - 講義の完全英語化
 - 留学生、外国人教員の増員
 - 大学院生の海外留学促進
- 学位取得後のキャリアパスの促進
- 奨学金制度の充実
- 若手教員ポストの充実
- 学外機関(産官)との研究教育連携の強化